

令和7年度 宮崎県立延岡高等学校 自己評価書(評価は1～4の4段階)

評価指数 4(期待以上) 3(ほぼ期待通り) 2(やや期待を下回る) 1(改善を要する)

<p>教育目標</p>	<p>旧制延岡中学校・延岡高等女学校以来からの歴史を継承・進化させ、社会に貢献するたくましい人材を育成する。 教職員の情熱的で粘り強い指導のもと、校訓の『剛健・自治・信愛』の具現化を図り、生徒一人ひとりの持てる力を十分に発揮させ、生徒の自己実現に邁進する。</p>	
<p>基本方針</p>	<p>【目指す学校像】 県北の伝統校として信頼され、負託に応える活力ある進学校 【めざす生徒像】 自ら学び、高い志を持って、臆することなく目標に挑戦し続ける生徒 1 穏やかな心と身体を持ち、骨太でしなやかな人間力を兼ね備えた逞しい生徒(剛健) 2 論理的・科学的に考え、意欲的に自らを表現し、自律的に行動できる生徒(自治) 3 故郷を基盤にグローバルな視野を持ち、多様な他を尊重し協働しながら探究できる生徒(信愛) 【めざす教職員像】 Life-Work-Balanceの管理に努め、心身ともに健康で、教育に喜びを感じられる教職員 1 生徒一人一人を大切にす教育の推進の実現のために、自己研鑽し続ける教職員 2 同僚の人格と多様性を尊重し、切磋琢磨しながらも風通しの良い職場作りを努める教職員</p>	<p>(努力事項) 1. 伝統校に学ぶ喜びと誇りを胸に、骨太な人間力と進路実現のための学力の育成 2. SSH研究開発による科学技術人材の育成 3. 家庭・地域・同窓会との連携による信頼される学校づくり 4. メディカル・サイエンス科の進化</p>
<p>重点目標</p>	<p>達成手段</p>	<p>総括</p>
<p>1 伝統校に学ぶ喜びと誇りを胸に、骨太な人間力と進路実現のための学力の育成</p>	<p>(1) 生徒が自ら学ぶ意欲を高め、深い学力をつけるための質の高い授業の創造 スローガン：授業を教師の生きがいに 授業を生徒の学びがいに 延高ならではの学びの確立を ①生徒の主体性と思考力を育てる授業展開の工夫とそれを目指した科教会の活性化 ②「主体的・対話的で深い学び」につながるICT活用と学びの「量から質」への転換 ③外部機関との協働による、個に応じた学び方の選択と学びの場の確保 (2) 他の多様性を認め、思いやる心を育み、「共生社会」の形成に主体的に関わる人材の育成 (3) 自立した人間を育てるためのキャリア教育の推進 (4) 深い学力を培い、探究的な学びにつながる豊かな読書活動の推進 (5) 進路決定に対して生徒が主体的に取り組めるサポート体制の確立とそれを尊重する共通理解</p>	<p>3, 11 ●年間3回、授業公開を行うなど、授業改善のための研究授業や研修を実施した。そのうち1回は、学校運営協議委員にも参観いただき、学校関係者の視点から本校の授業の在り方について助言をいただいた。 ●各学年の学力検討会や進路検討会においては、定期考査や校外模試の結果などを活用して、十分に分析された資料をもとに、次年度に向けての学習指導の方針が共通理解できた。学年においては、成績の各層に応じた指導の改善が行われ、成績の底上げ、あるいは維持が図られた。 ●人権学習が計画的に実施できた。引き続き多様性を認める教育活動を実践できた。 ●キャリア教育等に関連する三者面談、二者面談が、十分に実施できており、各生徒の進路実現のための実践を継続することができた。一方で、個人の希望と学習成績状況のアンバランスに悩む生徒も存在するなかで、最適支援の在り方を常に模索し続ける状況もあった。 ●朝の読書活動を継続して実施できた。図書館改革に着手し、これまで以上に利用しやすい、利用したくなる図書館を目指した工夫を行った。</p>
<p>2 SSH研究開発による科学技術人材の育成</p>	<p>(1) 第Ⅱ期の始動における諸問題の解決と地域と連携したプログラムの醸成 (2) 教師の指導力、伴走力、コーチング力を高めるための研究や講演などの企画立案 (3) 課題探究活動の普及と発展を目指した、本校の成果の発信と県北地区発表会の企画運営</p>	<p>3, 09 ●昨年度末に、無事にSSHⅡ期の指定を受けることができた。今年度実践した「のべたかSALK」やプレゼンテーション英語、A-timeなど、評価いただいた点を生かした取組を進めることができた。 ●職員研修の回数を増やしたことにより、取組後の振り返りや反省が十分に行えた。 ●本校の成果について地道に発信し続けたことにより、旭有機材様や三菱電機様からお声がけをいただけるようになり、共同のプロジェクトを開始できる運びとなった。 ●サイエンス部の活動充実させることができた。部員の増加、県総文祭物理部門優秀賞受賞など、地道に実績を積み上げることができた。 ●これまでの取組が全国的に評価され、「学びのプラットフォームSTEAM探究グランプリ」のグランプリを受賞した。</p>
<p>3 家庭・地域・同窓会との連携による信頼される学校づくり</p>	<p>(1) 家庭・地域・小中学校等に対する、本校の魅力(生徒の輝く姿)の積極的な発信 (2) 家庭・地域・同窓会との連携と理解による働き方改革の推進と信頼される学校づくりの両立 (3) 命を守りつなぐ安心・安全な学習環境の整備と非常災害時に備えた学校づくり</p>	<p>3, 00 ●PTA総会出席率80%以上を継続しており、保護者からの多大な支援のもと、萌樹祭や体育大会等様々な学校行事を成功させることができた。これらをホームページや新聞でお知らせすることで、本校のPRにつながっている。 ●保護者の協力により学校行事が円滑に進められることで、職員の働き方改革が前進した。 ●生徒及び保護者の協力のもと、自転車ヘルメット着用を校則としたことで、県内高校でも突出して高いヘルメット着用率を実現できたことは、命を守る取組の土台となった。</p>
<p>4 メディカル・サイエンス科の進化</p>	<p>(1) 可能性を信じ挑戦する志高い人材の育成と、医学部を含む難関大学等に合格できる学力の育成 (2) 本科ならではの学びや行事・プログラムの開発と、その魅力の発信</p>	<p>3, 11 ●MS科ならではの授業改善の工夫を行い、日々実践している。それらが校外模試の成績にも現れてくるようになるまで、教師が努力を継続する必要がある。 ●オープンスクールで、生徒が中学生及び保護者向けにメッセージボードを作成したり、取組の発信をしたりして、学科のPRを生体主体で行うことができた。 ●次年度以降の学科内改革に向けて、具体的協議を始めることができた。</p>